

## 日本海ブロックにおける特筆すべき情報(府県水産試験場等)

機関名: (地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 10月～12 月	なし	各層最高水温は10月はかなり高めとなった。11月は一時的にかなり低めになったが、12月は再び高めとなった。 対馬暖流の流幅は11月はやや狭くなっていた。 水塊深度は11月にかなり浅くなった。 北上流量は10月は多めだった。11月にはかなり少なくなり、12月は再びやや多めとなった。 対馬暖流の勢力としては、11月にかなり弱めになった。	陸奥湾の水温は8月から10月にかけて1985年の観測開始以来、例をみないほどの高い水温を記録し、養殖ホタテガイに大きな被害を及ぼした。	なし

機関名: 秋田県農林水産技術センター水産振興センター

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 10月～12 月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 山形県水産試験場

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 10月～12 月	9月までの高水温の影響からか、サケの前期群(海面は10月末まで、河川は11月上旬まで)の海面漁獲と河川採捕が不漁であり、海面漁獲尾数7.7千尾(過去5年平均比32%)、河川採捕尾数24.0千尾(同52%)であった。	なし	なし	なし

機関名: 新潟県水産海洋研究所

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 10月～12 月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 富山県農林水産総合技術センター水産研究所

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 10月～12 月		特になし	特になし	

機関名: 石川県水産総合センター

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 10月～12 月	・定置網ではアカカマス・アオリイカが好調。9月～11月の漁獲量は、アカカマスが平年比176%、アオリイカが平年比198% ・中型まき網でブリ当歳魚が好調。9月～11月の漁獲量は、平年比198%。	猛暑の影響で、地先水温は10月まではなはだ高めで推移。 10月の月平均水温はいずれの観測点(橋立港・宇出津港・石崎港)でも1980年以降で最高を記録した。		

機関名: 福井県水産試験場

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 10月 ～12月	甲幅121.8mmのズワイガニ未成体雌が採捕された。	なし	なし	なし

機関名： 京都府農林水産技術センター海洋センター

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 10月～12 月	◎10～12月の漁獲量がカタクチイワシは8.6トン(平年同期74.4トン)、マアジは127.5トン(平年同期471.9トン)と前期からの不漁が続ぎ、1～12月計でもカタクチイワシは1,273.5トン(平年2,301.8トン)と過去10年で下から3番目、マアジは780.6トン(平年2,590.0トン)と過去20年で最低の不漁年となった。 ◎12月のブリ(4kg以上)漁獲量は321トン(平年16トン)と近年にない豊漁。	◎特になし	◎特になし	

機関名： 兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 10月～12 月	12月のズワイガニ漁獲量が102トン(対前年比67.8%)と、過去10年間で最も少なかった。	特になし	特になし	特になし

機関名： 鳥取県水産試験場

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 10月～12 月	・マサバは漁獲が例年10月に多くなるが、今年は11月と遅れた。 ・ブリ(ハマチ)が8月以降漁獲が非常に多く10月まで豊漁(近年の2～4倍)であったが、12月は前年の1/4となった。 ・スルメイカ秋イカ漁は極めて不漁で、境漁港への入港は10月及び11月は皆無、12月は僅か6トンで年間総水揚げも93トンと1990年以降では例を見ない大不漁であった。 ・12月にギンガメアジ幼魚、ソトイワシがそれぞれ釣り、定置網で漁獲。 ・沖底では12月には入ると急激に松葉がこの大型個体が獲れなり、年末商戦を迎え境港の仲買では大きな問題となった。	本県中部にある沿岸漁業部の沈砂槽の水温は8月以降平年より高めに推移していたが、11月に入り平年並みとなった。		

機関名： 島根県水産技術センター

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 10月～12 月	特になし	10月の浜田の平均水温は23.0℃とかなり高め(平年差+1.2℃で10年に1回の出現確率)、恵曇の平均水温は23.9℃で、はなはだ高め(平年差+1.7℃で20年に1回の出現確率)であった。	特になし	特になし

機関名： 山口県水産研究センター

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 10月～12 月	特になし	特になし	特になし	特になし